

## 実習報告（基盤教育実習）

## 学習者のエンパワメントを引き出す保健体育の授業の検討と考察

峯 勇太（授業実践探究コース）

## 【探究実習のテーマと設定の理由】

今回の基盤教育実習は、私自身の大学院2年間の研究テーマである『学習者のエンパワメントを引き出す授業開発-連峰型スポーツモデルの構築を目指して-』に沿って行うこととする。

文部科学省(2009)の高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編において、保健体育の教科の目標は、「心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を育てる。」とされている。特に、高等学校は、普通教育の最終段階であるため、「生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力」を育む重要な段階であると考えられる。この資質や能力を保健体育の授業の中で育み、卒業後の実生活・実社会で活かすにはどのような教師の手立てが効果的であるのかを検討していきたい。

この資質や能力を育むために、学習者のエンパワメントを活用しようと考えている。森田(2002)はエンパワメントとは、「自分の内なる存在に気が付き、そのパワーを豊かに育てること」と述べている。生徒の中に存在している資質・能力を教師の手立てによって引き出す方法を探りたいと考えている。しかし、このエンパワメントに関しては保健体育の授業に援用するにあたって、定義をこれから更に探る必要性を感じている。

また、梅澤(2016)は、「公教育における体育では、生涯を通じて健康でアクティブ(活動的)に生活するための身体的リテラシーの育成が求められるようになってきた」と述べている。これを踏まえ、「チャンピオンシップスポーツ(競技志向)とレクリエーション的スポーツ(健康志向)の「連峰」のいずれかにも向かう重なり部分が学校

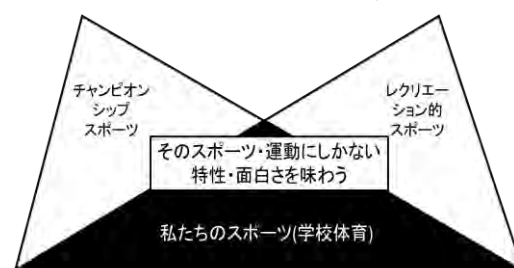


図1 連峰型スポーツモデル  
出典：梅澤(2016)体育における「学び合い」の理論と実践、大修館書店

体育である」と述べている。これを表したものが図1の連峰型スポーツモデルである。生涯にわたるスポーツライフにおけるスポーツへの関わり方の多様性を示していると考えられる。学校体育がいかに重要であるかがこの図より読み取ることができる。私はこの連峰型スポーツモデルをこれからの日本のスポーツ社会システムの理想とし、生徒が高等学校卒業後の実生活・実社会においていずれの峰へも進むことができるような学校体育のあり方を考えていきたい。

## 【探究実習の研究目標】

基盤教育実習の研究目標

- ①学校の実態把握(実習校の研究課題の把握)。
- ②現在行われている保健体育の授業の把握（保健体育に関する意識の調査）。
- ③学習者のエンパワメント引き出す保健体育の授業開発の検討。

## 【探究実習の概要】

今回の基盤教育実習では、実際に授業を行わせてもらうことができた。主に授業では以下の4点に

ついて担当教員からのアドバイスを受け、次のような意識で実習に臨んだ。①主に授業において生徒と共に活動を行い、コミュニケーションを多く取ることを心掛け生徒との関係性を深める。②各時間の担当の教員の授業構成や指導法について学ぶ。③自身の授業実践力の向上に努める。④理論を実践の中にどのように取り込むか検討する。

実習校であるA高校の体育の授業の一般的なスタイルとしては、教師側から指定した部分練習を行い、ゲームへと移行する形態である。例としてソフトボールであれば、キャッチボールやノックによるキャッチ、スローイングの練習後にゲームが行われていた。バスケットボールであれば、レイアップシュートの練習後にゲームが行われていた。毎回の生徒観察を行うことで明らかになったことは、部分練習の時間を多くする程、活動意欲の低下が見られたことである。A高校の生徒は真面目に活動に取り組む生徒が多く、授業のルール等はしっかりと守る。しかし、まだ高校生であるため、やはり楽しくない活動や自分が行いたくない活動の時は活動意欲の低下が顕著に出てしまっていた。

今回の実践での単元は表1の通りである。表1は今回の実習での時系列順に単元を並べている。

表1:各学年で行った単元

1年生	ソフトボール	バレーボール	バスケットボール	
2年生	ソフトボール	バスケットボール	柔道	サッカー
3年生	ソフトボール	バスケットボール	テニス	

## 【探究実習の成果と課題】

### 1. 成果

今回の実習では、週1回であり全ての授業には参加できない中で、担当授業の生徒達との関係は構築できたと感じている。また、実習校のスタイルにも慣れることができた。目標に挙げた「自身の授業実践力の向上」については、担当教員に授業の進め方等のアドバイスをもらいながら毎回の授業実践に臨むことができた。

自身の研究テーマとの関連については、実習の後半に意識して授業の参観等を行うことができたと感じている。私自身が探究実習において最終的に目標とする学習者のエンパワーメントを引き出す授業と実習校の体育の授業とを照らし合わせながら参観等を行うことができた。具体的には、芸術コースのクラスで授業を行った際に、ゲームの中で課題を見つけ授業の最後に練習の時間が欲しいという発言があった。ゲームから自身やチームの課題を発見し、自分たちで練習に取り組む姿が見られた貴重な授業であった。また、運動の能力の高い生徒が低い生徒へと教える姿も見られた。この授業では、部分練習が行われずゲームから授業を始める形態がとられていた。生徒の活動への意欲を高めるためには、活動の順序を改めることが必要ではないかと新たに考えることができた。

### 2. 課題

今回の実習では、週に1回の実習であったため、担当教員との充分にコミュニケーションが取れず、実習校においてはどのようなことを意識されて授業が進んでいるのか等の重要な点が未だにわかっていない状況である。教師側がどのような意識で保健体育の授業を行っているのかの調査の必要性を感じている。

自身の研究テーマとの関連としては、現在のA高校の授業においては活動から生徒が何を学び、「生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力」がどこまで育まれているのか確認することはできていない。その調査をアンケート等を行うとともに、生徒が授業から生涯スポーツの重要性を発見することができ、活動に積極的に取り組み、学びを得るような授業を考えていきたい。